社長インタビュー

ユニーは新しいエコ・ファーストの約束の達成を目指し、次世代の子ども達に持続可能な社会を渡すためにユニーグループ全体で地球環境・地域社会に貢献します。

ユニー株式会社 代表取締役社長
佐古則男

ユニーは2014年6月に、新しいエコ・ファーストの約束を環境大臣と交わしました。

これからの5年間で、持続可能な社会を目指してさらに高い目標を掲げ、本業を通して低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現していくことを約束しました。

また2014年は、「国連ESDの10年」の最終年であり、愛知県・名古屋市で「ESDに関するユネスコ世界会議」※1が開催されます。ESDを2005年から実践し、地域に根ざした環境活動を推進してきたユニーにとっても、これまでの成果と課題を見直し、さらに「わかりやすく取り組みやすい環境・社会貢献活動」を進める節目の年でもあります。佐古則男代表取締役社長と百瀬則子執行役員グループ環境社会貢献部長による対談で、その思いを紹介します。（インタビュー：2014年6月12日）

※1　ESDに関するユネスコ世界会議：地球環境や平和・貧困問題など、次世代が担う多くの課題解決を目指して世界中で実施しているESD（持続可能な開発のための教育）の成果と今後について協議する会議です。（ESD=Education for Sustainable Development）

新しいエコ・ファーストの約束を締結し、さらに高い目標を目指します

百瀬　2008年に交わした約束は2013年までに全ての項目を達成し、新しいエコ・ファーストの約束を6月に交わすことができました。エコ・ファーストの約束はとても厳しい内容で、達成するために担当部署や店舗は大変な努力を要しましたが、お客様や地域の自治体・NPOと一緒に頑張って達成できました。

佐古　「食品リサイクルループを全地域で構築する」「レジ袋辞退率75%」など、最終年度はかなり厳しい状況でしたが、全社を挙げて約束達成のために頑張りましたね。ユニーの環境活動は、本業を通してお客様に「環境にやさしいお買い物」をしていただき、エコライフを推進していくことが目的なので、これらの成果は地域社会の環境保全に繋がるともいえます。今後は新しいエコ・ファーストの約束を果たすことで、地域環境・地域社会に貢献していきます。

子ども達に分かりやすく印象に残るESDの取り組み

百瀬　ESD（持続可能な開発のための教育）とはあまり聞きなれない言葉ですが、かけがえのない地球を大切に守り未来に繋げていくことです。ユニーでは、環境・社会貢献活動をスタートさせた当初から「未来の子ども達に美しい自然を残したい」というテーマでさまざまなESDを実施してきました。

特に地域に根ざしたESDとして、2002年からは店舗で地域の子ども達に「お店探検」という環境学習を開催してきました。いつも行くスーパーで「ごみの行方」「リサイクル工作」などを店長がリーダーになり実施しています。店長がリーダーをすることで従業員や他のお客様にも環境活動に関心を持ってもらえるという効果も生まれました。

佐古　いつの時代も、子ども達こそ未来そのものです。また、環境に対する意識は大人になってからではなかなか身に付きません。だからこそ、子ども達に環境について学んでもらうことが大切なのです。ユニーがより重きを置いているのは、耳で聞いたり目で見たりするだけではなく、自分の手足を動かしたり臭いを感じたり、五感に響く活動を行うことによって、印象に残る、記憶に残る環境学習です。特に夏休み自然探検隊は、その最たるもの。五感を通して心や体にしっかりと刻み込まれた思いこそが、大人になって自ら動ける原動力になります。

百瀬　またユニーは、スーパーという生活者に一番近いところで、お買い物を通した環境啓発を行っています。幅広い層のお客様が高い頻度で利用していただいているので、多くの方々に少しずつでもエコライフスタイルに関心を持ってもらうことができます。

佐古　まさにその通りです。我々小売業は、商品とサービスを通じてお客様に情報を伝えることも重要な仕事の一つで、「難しいことをいかにわかりやすく伝えるか」が情報提供において最も大切な視点です。ESDという大きな取り組みについても、「広く浅く」と「狭く深く」の両面をうまく生かして伝えていくことが重要です。ユニーでは、単に店舗で実施している環境活動を伝えるだけでなく、どんな商品を選べば環境にやさしいかを売り場で学べる具体的な環境教育も行っています。

安全・安心とコミュニケーションを核に地域社会に貢献する

百瀬　業種の特徴を生かした環境・社会貢献活動としては、地域社会とのかかわりをいかに育んでいくかも重要なポイントですね。

佐古　ええ、来店頻度の多さは、食料品を中心に日常生活用品を売っていることとともに、スーパーマーケットに地域のコミュニティセンターとしての役割が求められているからだと思います。バリアフリーにしたり休憩スペースを設けたりすることはもちろん、子育て支援や認知症サポーターなど地域の方々の交流を育む方策も重要です。

例えば、ユニーが実施している「ハッピーパスポート」というサービスは、年金受給者が年金支給日にご来店すると割引を受けられるサービスですが、これをきっかけに店舗に足を運んでいただき、地域の方々が交流を育める場所になることも目的にしています。